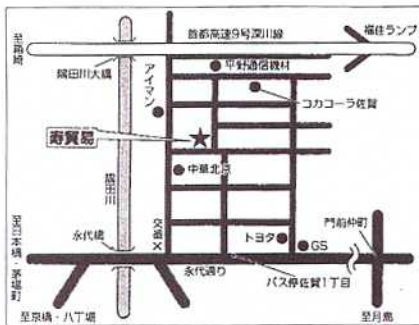


アマチュア用工作機械の老舗

寿貿易

〒135-0031 東京都江東区佐賀1-11-11 ☎03-3642-3035 FAX 03-3641-8443
 営業9:00~17:00 日曜日 http://www.kotobuki-mecanix.co.jp/

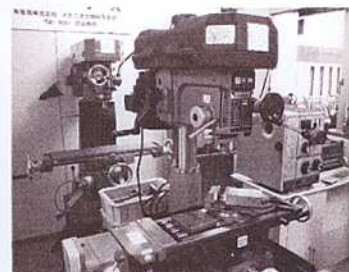


「お助けショップ」
 工作機械・ツール編

●ミニハンドプレス機はトグル式の特価品が6万5000円。このほかメタルカッター、小型溶接(おひのこ)盤などいろいろな小型工作機械を見ることが出来る。



●人気のFL400E卓上旋盤。主軸にテーパローラーベアリングを採用するなど、「生産機コンセプト」の高級アマチュアマシンである。



●ミニシリーズの「1ランク上のマシン」というのが、ショップエースM18Aフライス盤(写真右・基本セット28万5000円)とFL400E(左・基本セット23万円)。機軸は、使い勝手が自慢である。さらにワンオフ製作のプロを目指す方には、M28Aフライス盤(基本セット価格74万6000円)とUSL5A旋盤(基本セット価格115万円)等の組み合わせを薦めている。



●ショールームにずらり並んだ工作機械と石黒聡一社長。奥さん同様にやってきました、その場で購入するアマチュアも多いという。機械によるか保証は1年から2年、実演は前もって相談を。(段取りが必要)。



●人気はこのミニフライス盤・FM100(写真右・標準セット18万3900円)とミニ旋盤・FL350E(上・フルセット17万8100円)。ともに事務机に置けるほどの卓上サイズだが、1/2HPモーターを搭載し、無段変速とHI/LOW切り替えによる切削が可能だ。ミニ旋盤は三爪スクロールチャック、固定センター、トップスライド、6本組みパイロットセット等を標準装備。ミニフライス盤はコラム(角型の柱)を視元から傾げられる。「模型の動機製作くらいに思ってください。メインで使うランク上のマシンを……」



アメリカの農家のオバちゃんらは、ボール盤と旋盤の違いがわかるという。農具やトラクターを修繕する工作機械は、大平原で生き抜くために欠かせぬ生活道具だからである。またヨーロッパでは週末に木工や金属工作を楽しむ伝統があり、ガレージにフライス盤があっても変人扱いされることはない。

時代の風向きが変わってきたのか、最近わが国でも自分用の工作機械を求める人が増えてきた。隅田川のほとりに小さなショールームを持つ寿貿易にも、そんなアマチュアたちが訪ねてくる。

寿貿易は1938年設立の札幌製作機械製作所(現・同社製造部門の(株)メカニクス)東京営業所として60年に発足。当時から試作・小ロット・個人用小形機を専門としていた。

「回転機は10万円台のミニマシンですが、器用な人はすぐ飽きます。中級機をお薦めしますね」と石黒聡一社長。

個人ユーザーの使い方は様々である。フライス盤でナイフを削り出す人もいれば、ルーアーの疑似傾斜を作る人もいる。ラジコンや鉄道模型のパーツ製作にも重宝するようだ。バイクのトップブリッジ、ブレーキキャリアサポーターを自作してショップに卸しているセミプロもいるらしい。旧車レストアラー、そして、町の発明家も御意様である。

だが器用な人はお客さんではない。何でも簡単にできる、と思いついて買った方がいいが、使いこなせずにクレームをつける人も少なくない。

「工作機械には使い手の技量と工夫が必要なんです。パイロットの研ぎ方にもそれなりのテクニクがいりますからねえ」

だからアフターサービスはメンテナンスよりも使い方のアドバイスに忙しい。故障原因もユーザーのミス(誤操作)が大半だという。シロウト相手の販売のつらいところである。

そこで購入希望者にはコンサルティングシートを送り、工作の目的、材質、大きさなどを明確にしてもらっている。そして何よりも確実にクリアして、おいてほしいのが奥様の許可かどうか。以前に「よくウチの亭主をたぶらかして！」と激しく抗議されたことがあるとか。ご夫人同伴で実物を確認をして、まがりなりにもお台意のうえでお願いしたい。

旋盤 フライス盤、ボール盤、ならい旋盤 万能工作機械などが揃い、そのほとんどが家庭用100V仕様である。個人用とはいえ価格幅は広く、旋盤を例にとれば7万円から165万円まで。廉価品は台湾・中国などからの輸入品だが、実用機として耐えられるよう、自社による加工・改修で精度と耐久性を確保している。

人気は10万円台のミニマシンですが、器用な人はすぐ飽きます。中級機をお薦めしますね」と石黒聡一社長。

個人ユーザーの使い方は様々である。フライス盤でナイフを削り出す人もいれば、ルーアーの疑似傾斜を作る人もいる。ラジコンや鉄道模型のパーツ製作にも重宝するようだ。バイクのトップブリッジ、ブレーキキャリアサポーターを自作してショップに卸しているセミプロもいるらしい。旧車レストアラー、そして、町の発明家も御意様である。

だが器用な人はお客さんではない。何でも簡単にできる、と思いついて買った方がいいが、使いこなせずにクレームをつける人も少なくない。

「工作機械には使い手の技量と工夫が必要なんです。パイロットの研ぎ方にもそれなりのテクニクがいりますからねえ」

だからアフターサービスはメンテナンスよりも使い方のアドバイスに忙しい。故障原因もユーザーのミス(誤操作)が大半だという。シロウト相手の販売のつらいところである。

そこで購入希望者にはコンサルティングシートを送り、工作の目的、材質、大きさなどを明確にしてもらっている。そして何よりも確実にクリアして、おいてほしいのが奥様の許可かどうか。以前に「よくウチの亭主をたぶらかして！」と激しく抗議されたことがあるとか。ご夫人同伴で実物を確認をして、まがりなりにもお台意のうえでお願いしたい。